

## 災害対応の技術学ぶ

日測協道支部 網走で講習会



【網走】日本測量協会北海道支部は5月28日、網走建設会館でサーベイアカデミー「UAV（無人航空機）取得データを用了災害地の測量と調査」を開いた。オホーツク、十勝、根室の各管内の会員16人が参加。最新測量技術の習得に努めた。災害発生直後に実態を把握する手段の一つとして、UAVによる情報取

得がある。発災時に求められる成果に対応できる計測や調査技術の把握・定着を図るのが狙い。講師は日測協の瀬戸島政博顧問、ルーチェサーチ（本社・広島）の有木峻将地、理空間情報部営業課長、国際航業（同・東京）の村木広和上席フェロー、グループ事業連携推進PT室が務めた。瀬戸島顧問がUAVを用了災害対応のメリッ

計測事例などから留意点を学んだ

トを紹介。「鳥が飛行するような低空から高解像度で時系列に被災状況を把握できる」と解説。発災後の緊急的に求められる成果にも対応できるとし、崖崩れや山林火災の事例を用いて二次災害予想への期待も伝えた。

有木営業課長は計測調査事例のほか災害地の撮影ポイントや留意点、村木上席フェローは点群ビュアやクラウド処理について説明した。